

# 第 12 回日本訪問歯科医学会 プログラム

メインテーマ 『 地域のきずな - 訪問歯科 - 』

## 11 月 4 日(日)開催

会場:東京国際フォーラム ホールB5(東京都千代田区)

10 時 15 分～16 時 30 分 (第 12 回日本訪問歯科医学会)

開 場

特別講演

「訪問歯科診療における表情筋を鍛えることの効果について」  
日本アンチエイジング歯科学会常任理事  
宝田歯科医院院長 宝田 恭子氏

会員発表①

「東日本大震災後の気仙沼における地域医療連携」  
山谷歯科医院 一瀬浩隆(いっせひろたか)氏

会員発表②

「訪問診療における義歯作成法・調整法のマニュアル化」  
医療法人社団 和春会 洋歯科クリニック 草川 洋氏

休 憩

ランチョンセミナー「訪問診療における事務作業の軽減策」  
日本訪問歯科協会 医療事務研究班 主席研究員 杉山 悟

会員発表③

「訪問診療における当院での取り組みと反省点」  
坂口歯科医院 坂口 豊氏

会員発表④

「日常の臨床から下顎義歯のリベース」  
はやし歯科医院 林 幹也氏

会員発表⑤

「訪問診療での口腔ケアと糖尿病」  
宇川歯科 岡本 基岐氏

休 憩

会員発表⑥

「訪問歯科診療における摂食・嚥下機能訓練および義歯治療に  
対する当院の取り組み」  
まつしま歯科クリニック 松島 寛明氏

会員発表⑦

「認知症等で咬合採得が困難な症例において比較的簡便に BT を  
とるためのヒント」  
医療法人 愛弘会 しばた歯科 柴田 督弘氏

特別講演

「要介護高齢者における義歯の意義と臨床的対応」  
九州歯科大学 摂食機能リハビリテーション学分野  
教授 柿木保明氏

閉 会

## ■ 特別講演

# 訪問歯科診療における表情筋を鍛えることの効果について

宝田歯科医院 院長  
宝田恭子

昭和8年生まれの実母が介護4、認知症の診断を受け、介護施設に入所して3年半になります。現在でも困っていることは、28本の歯が健全な母のブラッシングがうまく出来ない事、毎食あまり噛まずに嚥下してしまう事です。1ヶ月に4~5日自宅に戻った時は、約1時間かけて、歯ブラシを見守り共に行い、食事時の姿勢や噛む回数をカウントするなど、本人が飽きずに聞き入れてくれるように『きれい』という視点から何回も工夫して話をしています。

現在では、ご縁でこの母との取り組みを施設の皆様とも行わせて頂いております。指先の皮脂が少なく、手がガサガサして冷たい高齢者が多いことに気づき、手から始めるエクササイズを考案し、首、顔に至るエクササイズを教えているうちに、皆様がどんどん元気で無表情だった方も、笑顔になって高齢者こそアンチエイジングのエクササイズが有効だと確信するようになりました。鍵となるのが、胸鎖乳突筋です。

この走行角度を意識して首を動かすエクササイズを行います。そして、例えば食事を1口で30回噛むエクササイズを1日3回おすすめています。

男女問わず、何歳であっても清潔感と若々しさを保とうという意識は高いです。見落としがちなの部分を積極的に引き出しながら歯科診療を行うことは、結果として、関わらせて頂いている私自身の心のエクササイズになっています。当日は、エクササイズを一緒に行いながら、お話をさせて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。

## ●略歴 宝田 恭子（たからだ きょうこ）

略 歴 1956年生まれ  
東京歯科大学卒業後、同大学保存科勤務を経て、  
宝田歯科三代目院長を継承  
日本アンチエイジング歯科学会常任理事  
認定バクテリアセラピスト  
メディカルアロマセラピー研究会  
日本睡眠改善学会 認定睡眠改善インストラクター

## ■ 会員発表

---

### 東日本大震災後の気仙沼における地域医療連携

山谷歯科医院

一瀬 浩隆

東日本大震災直後の気仙沼では多くの医療機関が被災したが、医療ボランティアが介入することで医療体制は整っていた。しかし、時間の経過とともに地域の医療体制が復興、医療ボランティアは縮小し、地域の医療へとシフトしていく必要がある。またシフトさせるにあたり、地域医療レベルが低下しないことも重要である。

もともと気仙沼では医科歯科等、他職種の連携は紹介状のやりとり程度で、1人の患者さんに対し多職種が連携して回復へのアプローチをすることはほとんどなかった。しかし、震災により外部から遮断された気仙沼では内部の医療間でのつながりが必然となり、多職種で構成された医療ボランティアとの関係もあったため、次第に多職種連携がとられていった。

多職種連携においては、歯科として義歯調整や口腔ケアはもちろん、嚥下機能評価や摂食嚥下指導が必要とされていた。そして、患者さんの口を守る上で、患者さんの全身状態をアセスメントし、医学的知識をふまえた歯科からのアプローチを提案できることが重要である。

震災後に深まった気仙沼の医療体制は今後も継続させ、より深く地域につながり、患者さんが安心してうけられる医療を提供する必要がある。

#### ●略歴 一瀬 浩隆 (いっせ ひろたか)

平成 18 年 日本大学松戸歯学部卒業

平成 23 年 JRS (気仙沼巡回療養支援隊) 所属

気仙沼・口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションサポート所属

平成 24 年 山谷歯科医院勤務

東名厚木病院 摂食嚥下療法部勤務

## ■ 会員発表

# 訪問診療における義歯製作法・調整法のマニュアル化

医療法人社団 和春会 洋歯科クリニック  
草川 洋

訪問診療における治療の中で、最も多い治療が、義歯の製作・調整・修理だと思われる。

当院では、9月に新しく訪問診療の核になるドクターが入局し、この義歯治療において自分の持っているノウハウを簡単に伝えることができないだろうか？という考え方からマニュアル化しました。

このマニュアルはどのドクターでも経験・技量により大差の出ないように作ったマニュアルです。特に訪問診療においては、診療現場の状況より手順が少なくてもより良い結果の出る製作・調整方法を使いたいため 診療経験12年で自分なりに学んだ技術を簡素化しました。

## ●略歴 草川 洋 (くさかわ よう)

昭和49年 8月4日 生まれ  
平成12年 3月 鶴見大学歯学部歯学科卒業  
4月 歯科医師国家試験合格  
平成12年 4月 東京都港区三田にて勤務  
平成17年 10月 東京都新宿区西新宿にて勤務  
東京都千代田区麴町にて勤務  
平成17年 11月 洋歯科クリニック 開院  
平成21年 4月 医療法人社団 和春会設立

## 役職

日本顎咬合学会 認定医  
日本抗加齢学会 会員  
日本歯科人間ドック学会 会員  
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 会員  
日本訪問歯科協会 会員  
南カルフォルニア大学 客員研究員  
南カルフォルニア大学  
センチュリークラブインターナショナルプレミアム会員  
カルフォルニア大学ロサンゼルス校  
アポロニアンソサエティ インターナショナル会員

## ■ 会員発表

---

### 訪問診療における当院での取り組みと反省点

坂口歯科医院  
坂口 豊

私たちは一般的な診療をさせていただいているいち歯科医院です。

Dr 以下訪問スタッフは、訪問歯科協会の皆様にお手伝いいただいて日々診療に取り組み、現在奮闘しております。

今回訪問診療を開始して2年の節目にて、当学会での発表の機会を頂きました。これまでの新規初心者としての訪問診療の振り返りと、様々な失敗、問題点に対して反省し、改善する機会ととらえて、発表させていただきます。

やっと当院としての診断、診療がまとまり始めた現状で、諸先輩方々の前でお話しできるような段階ではありませんが、皆様のご経験などから、ご指導ご鞭撻をいただけましたら幸いと思っております。  
宜しく願いいたします。

#### ●略歴 坂口 豊（さかぐち ゆたか）

平成 9 年 3 月 福岡歯科大学歯学部卒業  
平成 9 年 5 月 日本大学歯学部口腔外科学教室第 2 講座入室  
平成 16 年 6 月 日本大学歯学部学位取得（歯学）  
平成 17 年 4 月 高幡駅前歯科医院勤務  
平成 20 年 4 月 坂口歯科医院勤務  
現在に至る

## ■ 会員発表

---

### 日常の臨床から“下顎義歯のリベース”

はやし歯科医院  
林 幹也

訪問診療の依頼を受ける中で、入れ歯ががたつく、ゆるい、すぐにはずれる、入れ歯を入れて食事が出来ない、という主訴が多く見受けられます。

実際にこのような訴えのある患者様の口腔内を拝見すると、顎堤の吸収が著しく、上顎は小さくなり、下顎はほとんどフラットな状態になっている方がほとんどです。このような状態は、一昔前では難症例と呼ばれ、自分の中では義歯を安定させるのは半分あきらめていた様に思います。

しかし、訪問先の患者様の顎堤は、このような状態はむしろ普通であり日常の症例なのであります。訪問診療を始めてからこのような状態の方にも、咬める入れ歯、使える入れ歯で美味しい物を食べていただきたいと思い懸命に治療にあたりましたが、今まで習ってきた歯槽頂間線法ではどうしてもうまくいかないことが多く、他の方法を模索していた時、二年ほど前に横浜の加藤武彦先生の提唱されておられるニュートラルゾーン理論によるデンチャースペース義歯に出会い、何度か講習会に参加させていただき勉強し、自分なりに実際の臨床で義歯を数例作成したところ、今までより良い結果を出せていますので、この理論に基づき“口腔周囲筋で義歯を押さえ辺縁封鎖をはかり安定させよう”とする下顎義歯のリベース法をご紹介します。

また、義歯を新製する際、コピーデンチャーを作り義歯の外形を決める際にも役に立つテクニックですので、ご利用ください。

#### ●略歴 林 幹也（はやし よしなり）

- 1989年（平成元年） 鶴見大学歯学部 卒業  
愛知県 野村歯科医院 勤務
- 1992年（平成4年） 岐阜県 アピオ歯科 勤務
- 1995年（平成7年） 三重県津市にて はやし歯科医院開業

#### 役職

公益社団法人津歯科医師会 理事

## ■ 会員発表

---

### 訪問診療での口腔ケアと糖尿病

宇川歯科  
岡本 基岐

近年、加齢に伴って、高血圧や心疾患、糖尿病、認知症など全身疾患有病率が高くなり、訪問歯科診療においても全身疾患をもつ患者さんと遭遇することが多い。

これらの全身疾患の中でも、糖尿病は歯周病を悪化させる要因となりうるということが最近の研究で明らかになりつつあり、また逆に歯周病も糖尿病を悪化させることも報告されるなど両者には密接な関係があると考えられている。

例えば、歯周病は腎障害、網膜症、神経障害、大血管障害、末梢血管障害に次ぐ糖尿病の第6の慢性合併症といわれるようにまでなったが、このことは、患者さんにはもちろん医療従事者にでさえもまだ十分に認知されているわけではない。

また、糖尿病という疾患についても50～60歳代の3人に1人以上が糖尿病の治療を受けていない、10人に7人以上は人工透析や失明の原因の1位が糖尿病であることを知らない、およそ半数の人はインスリン注射は最後の手段と誤解している、など十分な理解が得られていないのが現状である。

厚生労働省の歯科疾患実態調査によると、40～70歳代の半数以上は歯周病になりうる歯周ポケットを有しているという。また別の調査では男性の5人に1人は糖尿病に罹患していると報告されており、どちらも有病率の高い疾患である。実際に当院が実施している訪問歯科診療においても歯周病、糖尿病とも高頻度に遭遇することで我々もそれを実感している。

今回、糖尿病を有する患者さんに対する口腔ケアの当院における取り組み、治療上の注意点、治療効果について報告し、口腔ケアの重要性について再考したい。

#### ●略歴 岡本 基岐（おかもと もとき）

平成 22 年 3 月 新潟大学歯学部歯学科 卒業  
平成 22 年 4 月 大阪大学歯学部附属病院 保存科 入局  
平成 23 年 4 月 大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子感染制御学講座  
平成 23 年 4 月 宇川歯科勤務

## ■ 会員発表

---

# 訪問歯科診療における摂食・嚥下機能訓練および義歯治療に対する当院の取り組み

まつしま歯科クリニック  
松島 寛明

平成 18 年 10 月に日本訪問歯科協会に入会し、訪問歯科診療を本格的に取り組むようになり先月で丸 6 年が経過した。お口の健康相談会や勉強会を通して、老健施設や居宅介護支援事業所などのケアマネージャーと知り合う機会が増え、地域で顔の見える連携が取れるようになってきた。また、患者様やその御家族の方からお知り合いの患者様をご紹介いただくこともあり、現在では大変多くの患者様の訪問歯科診療に携わっている。

近年、事業所の方から、摂食・嚥下機能訓練を行ってほしいとの要望が増えてきた。当初は患者様を通じて、STの方に色々教えてもらいながら当院として出来ることから始めていった。そして、昨年 九州歯科大学 柿木教授のセミナーを受講する機会があり、現在、試行錯誤ではあるが当院なりに取り組んでいる。

今回、当学会で発表する機会を得るにあたり、当院が摂食・嚥下機能訓練に対してどのように取り組んでいるか、実際の症例を通して紹介したいと思う。また、訪問歯科診療を行う上で高い割合を占める義歯治療に対する症例も合わせて僭越ながら紹介したいと思う。

## ●略歴 松島 寛明（まつしま ひろあき）

平成 12 年 3 月 福岡県立九州歯科大学歯学部 卒業  
平成 12 年 4 月 島根医科大学医学部歯科口腔外科学講座 入局  
平成 14 年 4 月 掛合町国民健康保険掛合診療所 歯科 勤務  
平成 15 年 4 月 医療法人社団和洋会川上歯科医院 勤務  
平成 16 年 7 月 まつしま歯科クリニック 開院 現在に至る



## ■ 会員発表

---

# 認知症等で咬合採得が困難な症例において比較的簡便に BT をとるためのヒント

医療法人 愛弘会 しばた歯科  
柴田 督弘・逢坂 一志

私たちは日々臨床の中で患者様一人一人に合う入れ歯を作製し満足して頂く努力をしています。その上でも特に、BTに着眼点を置いており、それは往診の患者様にも言えると思います。

往診先では、意思疎通の出来ない方、不随意運動が起こってBTの採りにくい方など中々苦勞するケースがあると思います。

そこで、私たちは院内補綴全般でも採用している、「模型読み」の理論から模型上でランドマーク（メルクマール）を求めてBT作製を行います。

その作製したBTで咬合平面などを確実に出せれば、ある程度その人に合った基準の義歯がラボサイドの情報から作製することが出来ます。

本来その人が持っていたであろう噛み合わせを再現する事によって認知症等の患者様の意識レベルや姿勢の改善が見られ、QOL向上に一役担っているケースは少なくありません。

これからの日本は超高齢化社会に突入し、私達の役割は今以上に必要とされて来ます。そこで今、私達に何が出来るかを考えて、不自由されている入れ歯、噛めない入れ歯などを少しでも改善し、そして少しでも噛める入れ歯で咬合運動、咀嚼運動が出来ればそれ以上の事は無いと考えております。

今回、糖尿病を有する患者さんに対する口腔ケアの当院での取り組み、治療上の注意点、効果について報告する。

●略歴 柴田 督弘（しばた よしひろ）

徳島大学卒業

2004年（平成16年）8月 しばた歯科開院

西日本歯科研究会所属

顎位修正コース修了

逢坂 一志（おおさか かずし）

徳島歯科学院専門学校卒業

西日本歯科研究会所属

顎位修正コース修了

## ■ 特別講演

---

# 要介護高齢者における義歯の意義と臨床的対応

九州歯科大学 摂食機能リハビリテーション学分野教授  
柿木 保明

我が国の高齢化率も24%を超え、高齢者に対する歯科医療や医療連携の充実が叫ばれてきている。しかしながら、実際の臨床現場のスタッフからは、入所あるいは入院している要介護高齢者に対する訪問歯科診療による義歯調整などの問題点を指摘される例が多いように思える。そのため義歯を使用しないままの療養生活を余儀なくされている高齢者も増えている。

義歯を使用しないことで歯科診療の対象とならない要介護高齢者が増加することは、口腔機能の低下や経口摂取の機会を失う原因の一つにもなりうることから、歯科界にとっても避けなければならない。

これらの問題点は、寝たきり高齢者等の病態を理解しないままに、義歯調整していることが原因の一つでもあり、従来の考え方や対応方法を工夫することで解決できる問題点と思われる。すなわち、寝たきりの要介護高齢者等では、健康高齢者とは異なる生活環境や全身状態のため、口腔粘膜や顎位の安定についても、これまでの高齢者とは病態的にも異なる。服用薬剤や体位の問題で、水分代謝や血液循環が低下して、口腔粘膜や顎堤、歯根膜などに微小浮腫が生じやすい状況にある。また、運動機能低下や水分代謝低下のために、その微小浮腫を解消しにくい状況に置かれていることで、容易に義歯不適合が生じることとなる。

そこで今回は、要介護高齢者における義歯の意義と義歯調整における臨床的対応についてお話しさせていただくことで、訪問歯科診療の対象となる要介護高齢者のQOL向上の一助になれば幸いです。

## ● 略歴 柿木 保明（かきのき やすあき）

### 役職

九州歯科大学 生体機能学講座・摂食機能リハビリテーション学分野 教授  
同 口腔保健学科長  
九州歯科大学附属病院 副病院長

### 履歴

1980年 九州歯科大学卒業  
1980年 産業医科大学附属病院歯科口腔外科・専修医  
1981年 国立療養所南福岡病院・歯科医師  
1988年 同 ・歯科医長  
2005年 九州歯科大学・歯学部 教授  
摂食機能リハビリテーション学分野  
2010年 九州歯科大学附属図書館長（兼任）  
同・口腔保健学科長（兼任）  
2012年 九州歯科大学附属病院 副院長（兼任）

### 役職

- ・日本障害者歯科学会・副理事長、指導医
- ・日本老年歯科医学会・常任理事、指導医・専門医
- ・日本口腔ケア学会・理事、認定指導者
- ・日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士（歯科医師）
- ・非常勤講師（九州大学歯学部・東北大学、九州工業大学）
- ・福岡口腔ケア研究会・会長
- ・厚生労働省長寿科学研究事業・研究代表者
- ・介護支援専門員、労働衛生コンサルタント、その他

### 著書

- ・歯科医師・歯科衛生士ができる舌診のすすめ！（編著）、ヒョーロン、2010年
- ・口腔乾燥症の臨床（編著）、医歯薬、2008年
- ・看護で役立つ口腔乾燥と口腔ケア（編著）、医歯薬、2005年
- ・歯科漢方ハンドブック（単著）、KISOサイエンス社、2005年
- ・唾液と口腔乾燥症（編著）、デンタルハイジーン別冊2003、医歯薬、2003年
- ・臨床オーラルケア（編著）、日総研 2000年8月31日刊行
- ・障害者歯科ガイドブック（分担執筆）、医歯薬

### TV出演、国際学会等

- ・たけしの家庭の医学（テレビ朝日系列）：平成22年3月2日放映
- ・世界一受けたい授業（日本テレビ系列）：平成24年5月12日放映
- ・2011年台湾歯科医学会総会・特別講演
- ・2012年韓国障害者歯科学会総会・特別講演
- ・2012年国際障害者歯科学会・特別講演（予定） その他

## ■ パネル発表

# 脳血管障害を既往歴に有する患者の義歯診療における考察

緒方歯科医院

中 貴弘・緒方順治・緒方亮平・高橋 淳・黒田翔太・竹島亜奈

訪問歯科診療を希望される方の中には、脳血管障害の後遺症を抱えたまま生活を余儀なくされる方は極めて多い。脳血管障害によって寝たきりとなったり、寝たきりとははならなくても種々の後遺症によって、生活が制限されている状況の方がほとんどである。

特に片麻痺が利き腕側で起こった際は、セルフ口腔ケアの困難さに加え、義歯の着脱にも大きな影響をもたらす。さらに、口腔周囲筋や組織にも影響が波及し、歯科診療を行う上で苦慮することも多い。

このように、脳血管障害の後遺症の程度も、非常にバラエティーに富む中での訪問歯科診療は、患者様本人が出来ることと出来ないことを評価しながら、手探りの状況の中で進められることが多い。

今回の発表では、緒方歯科医院における脳血管障害を有する患者様の歯科往診において、義歯を作製し摂食活動のお手伝いを行う中で得た知識と、実践した工夫を症例の形で提示させていただく。この発表を踏まえ、本学会に参加する先生方・スタッフの方々のご意見やご指導を頂戴したい。

## ● 略歴

中 貴弘	平成 14 年	明海大学歯学部卒業
緒方順治	昭和 58 年	城西歯科大学卒業・医療法人亮美会理事長・ 日本訪問歯科医学会認定医
緒方亮平	平成 22 年	明海大学歯学部卒業
高橋 淳	平成 15 年	日本歯科大学新潟歯学部卒業
黒田翔太	平成 21 年	明海大学歯学部卒業
竹島亜奈	平成 23 年	明海大学歯学部卒業

## ■ パネル講演

---

### 訪問診療における iPad 機器の導入について

二木歯科医院

喜田 剛介 井山 禎之 河野 信也 相田 明子  
小川 晋 猪股 翔子 加藤 幸奈 二木 由峰

当歯科医院がある江田島市は、過疎化および超高齢化が急速に進んでおり、口腔ケアを中心とした歯科診療が必要とされる高齢者の方は年々多くなってきている。このような地域環境の中で、我々の訪問診療に対するニーズは非常に大きくなっており、この10年我々は日本訪問歯科協会の協力を得て、地域医療に携わるべく訪問診療を行ってきた。しかしながら、日々の訪問診療の中でも様々な問題があり、診療に支障をきたす出来事が多々発生してきたのが現状である。

現在の診療体制については、往診車2台を日々稼働させており、ドクター、スタッフがローテーションを組んで出動している。そのため、患者の予約確認、さらには、往診車との連絡が困難となっており、しばしば訪問時間の手違い、往診車への伝達事項の不行き届きが生じている。また、往診患者数が多いことから、ケアマネージャーへの情報提供文章が非常に煩雑になっており、双方の連携が上手く取れていないのが現状である。

そこで我々は日々の訪問診療をより円滑に行うことを目的に、9月より訪問歯科協会が推奨している iPad を導入し、これらの様々な諸問題に対し、本機能を活用している。

#### ●略歴 喜田 剛介 (きだ こうすけ)

2008年(平成20年) 3月 日本大学松戸歯学部卒業  
2010年(平成22年) 3月 岡山大学歯学部臨床研修医終了  
2010年(平成22年) 4月 医療法人社団けんこう会 つだ歯科医院勤務  
2011年(平成23年) 4月 医療法人社団峰良会 二木歯科医院勤務  
現在に至る